
多面的機能支払 メールマガジン
「農村ふるさと保全通信」 第 143 号(2024.11.15)
農林水産省農村振興局 多面的機能支払推進室



高めよう 地域協働の力！

多面的機能支払のメールマガジン「農村ふるさと保全通信」の第 143 号をお届けします。

-----第 143 号の目次-----

1 活動組織の活動紹介

☆^{て が}手賀・資源を守る会（^{なめがたし}茨城県行方市）☆

生き物調査や農業体験等を通じて地域の子供たちとの交流を積極的に図っています！

☆^{なかのほう}中野方地域資源保全会（^{え な し なかのほうちょう}岐阜県恵那市中野方町）☆

NPO 法人と連携し、景観植物の定植など多種多様な共同活動を行っています！

2 女性役員へのインタビュー

☆^{かみなか}アクア上中（^{み は ら し だ い わ ち ょ う}広島県三原市大和町）☆

5 名の女性が活動組織の役員として活躍されています！役員を引き受けたきっかけや女性役員が増えてからの変化についてインタビューを行いました！

3 活動組織の活動の啓発・普及紹介

☆^{やかたばら}八方原の環境を守る会（山口県山口市）☆

活動日の周知や活動報告を目的に広報誌を毎月発行しています！

4 「令和6年度 田園自然再生活動の集い」開催のご案内

【編集後記】

■ 1. 活動組織の活動紹介(1)～手賀・資源を守る会(茨城県行方市)～ ■

～ 地区概要 ～

当地区は、行方市の北西部に位置し、霞ヶ浦沿岸に展開する水田地帯です。組織設立時より、非農家を含めた参加率は約90%以上を維持し、「自分たちのふるさととは自分たちで守る」といった意識の高い地域です。活動範囲は、田137.0ha、畑9.0haです。

～ 主な取組 ～

- ◎ 行政区と連携して、水路や農道等の保全管理活動に地域をあげて取り組んでおり、非農家を含めた参加率は90%以上となっています。



泥上げ作業



活動参加者

- ◎ 子供会と連携し、「田んぼの調査隊」と称した生き物調査や水質調査を実施しています。「田んぼの調査隊」は親子参加型で開催され、夏休みの恒例行事となっています。「田んぼの調査隊」を親子参加型にすることにより、地域住民との交流が促進されるとともに、地域の農村環境への幅広い理解に繋がっています。



生き物調査



水質調査

- ◎ 毎年、地元の小学校の5年生を対象に田植え及び稲刈り体験会を実施し、収穫したコメは学校の調理実習に提供しています。また、地域の「なめがたエリアテレビ」を活用して田植え、稲刈り体験など子供たちとの活動を情報発信しています。これらの農業体験や情報発信の結果、地元から新たに3名の担い手農家が生まれました。今後も、将来の地域農業のために子供たちへ積極的に農業体験を実施していきます。



稲刈り体験



テレビ放映時の映像

編集担当 SDGs コメント

子供会と連携し、生き物調査や水質調査を実施すること、地元の小学生を対象に農業体験を実施することは目標 4（質の高い教育をみんなに提供する。）に貢献しています。これからもこれらの活動が継続されることで地域農業への理解が高まり、より良い農業環境がつくられることを応援しています。



■ 1. 活動組織の活動紹介（2）

～中野方^{なかのほう}地域資源保全会（岐阜県^{えな}恵那市^{しなかのほう}中野方町）～■

～地区概要～

本地区は岐阜県恵那市の北部に位置し、笠置山の麓に広がる地域です。活動範囲は、田 71.67ha、畑 1.84ha、開水路 25.0km、農道 15.0km、ため池 7 箇所です。

～主な取組～

- ◎ 耕作放棄地が増加する現状を何とかしたい、美しい里山の景観を守っていきたいという想いで平成 28 年度に設立された「農事組合法人アグリアシスト中野方」を中心に多面的機能支払交付金を活用した共同活動に取り組んでいます。
- ◎ 医療・福祉との連携として「NPO 法人 まめに暮らそまい会」と草刈り、遊休農地発生防止のための景観植物の定植、棚田の一部をビオトープとすることによる生き物保全等、多岐に渡る共同活動を実施し、新たな遊休農地発生の防止や、農村環境の向上に繋がっています。また、総会の場を活用し、本交付金に関する研修会に加え、「用水路へのゴミ流出防止」をテーマとした独自の研修を行い、用水路の適切な維持管理に努めています。
- ◎ 中山間地域の農村地帯でも非農家も積極的に参加され、参加者の笑顔も増えてきました。農家・非農家関係なく地域の活性化に繋がっています。今後も本活動を通じて、地域の更なる活性化や活動の広がりを推し進めていきたいと考えています。



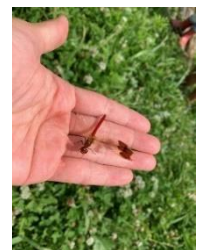
鳥獣害防護柵の維持管理



景観植物の定植



水路の補修作業（直営施工）



ビオトープでの生き物保全活動

【中野方地域資源保全会 代表 安江建樹】

編集担当 SDGs コメント

ビオトープの設置や景観維持の活動は、目標 11（住み続けられる地域をつくる）や目標 15（陸の豊かさを守ろう）に貢献しています。また、その活動を医療・福祉関係の NPO 団体などと共に協力して行うことは目標 17（効果的な市民社会のパートナーシップを進める）に貢献しています。農家、非農家に関係なく地域の活性化に繋がっているとのことで、これからも笑顔があふれる地域ぐるみの活動を応援しています！



■2. 女性役員へのインタビュー ～アクア上中^{かみなか}(広島県三原市大和町)^{みはらしだいわちょう}～■

組織の概要

活動範囲：田 72.8ha、畑 0.12ha

対象施設：開水路 25km、農道 5km、ため池 9 箇所

活動開始時期：平成 19 年～

～インタビュー～

○話し手 向井さん、山口さん、梶原さん、和田さん

○聞き手 中四局 多面的機能支払推進室 田中

○実施日時：令和 6 年 7 月 31 日

○場所：アクア上中事務所

Q：役員に女性が就いたきっかけを教えてください。

A：活動組織を立ち上げたときから参画しているユートピア上中（農事組合法人）において、法人の事務をしていたことがきっかけで活動組織の役員をすることになりました。当初は活動組織の女性役員は 1 名でしたが、法人の女性従業員等に声をかけ、現在の活動組織の女性役員は 5 名になっています。

Q：役員を引き受ける際に抵抗はありませんでしたか？

A：集落の半分は女性があり、男女分け隔てなく活動していますし、地域の多くの団体が参加しているので、特に抵抗はなかったです。

Q：女性役員が増えて変わったことはありますか？

元々、女性同士の繋がりがあり、女性が意見を出す地域ではありましたが、より一層、話がスムーズに進むようになったり、組織の雰囲気良くなったように思います。

Q：今後の展望や目標を教えてください。

A：できる限り共同活動を継続して、今の状態を守っていきたいと考えています。



代表の向井さん（写真前列左）
女性役員の山口さん（写真前列右）
書記の梶原さん（写真後列）
書記の和田さん（写真後列）



活動計画の策定の様子



休耕田でのひまわりの播種

編集担当 SDGs コメント

本活動組織では、多くの女性が役員や構成員として参画しており、目標 5（女性の参画により地域や活動組織の取り組みの可能性を広げる。）、目標 12（持続可能な生産・消費を進める。）、目標 16（多様な主体の参画による地域づくりを促進する。）に貢献しています。

非常に和やかな雰囲気の中、インタビューをさせていただきました。ご協力いただきありがとうございました。



■3. 活動組織の活動の啓発・普及紹介～^{やかたぼろ}八方原の環境を守る会(山口県山口市)～■

広報誌の概要

- 本組織の広報誌は、設立当初（平成 19 年 5 月）から毎月発行されています。
- 活動日の周知や報告のほか、自治会の活動、八方原地域内での出来事についても掲載されており、地域の方のためになる内容となっています。
- 自治会全戸に配布していますが、令和 3 年からはインターネットでも閲覧できるようにしています。

～工夫しているポイント～

ポイント1 記事の写真は人が写るように！

○広報誌に掲載する写真に動きを持たせ、読者の目を引くために、人が写るように写真を撮影しています。

ポイント2 見て・読んで楽しい紙面構成！

○広報誌の表面に配置する看板になる記事の写真や、見出しは目を引くものとなるように紙面を構成しています。対して裏面は、読み物として充実した内容を取り扱っています。

ポイント3 積極的な広報誌発信！

○地域を離れた方でも閲覧できるように、ホームページを作成し広報誌を掲載しています。500 程度の閲覧数があり、好評をいただいています。なお、ホームページ上ではバックナンバーをすべて閲覧することが可能です。

ポイント1 記事の写真は人が写るように！

記事内には、活動の様子がわかるように人が写った写真を使用しています。

令和 6 年 2 月 1 日
第 201 号

やかたばら環境通信

発行 〇〇
八方原の環境を守る会
代表 中村丈二



作業中ずっと「虹」が出ていた

1月21日、冬の農道清掃活動として西ノ池・金原農道の除草清掃を行いました。

前夜からの激しい雨は、予報通りに夜明け前に止まりました。気温もあまり低くなく、冬の作業としては楽だったかもしれません。距離は850メートルの両側なのでその倍となります。

丁寧に刈り払い機を使って、雑草を処理。ナイロンひもで作業をすると周辺に石をまき散らし、危ないので使用禁止

冬の農道を除草清掃

20人もの方がご参加くださいました。刈り払い機も10台以上あり、機動力溢れる作業となりました。また2班の石綿さんはご家族で参加をいただきました。今月の作業は、今回でひと段落ですが、今後も急な計画があるかもしれません。その時には、ご協力いただきますようお願いいたします。

西ノ池の農道わき水路の改修



約40メートルの区間を清掃（1月21日）

施設の長寿命化として行う事業は、どんな工事も自分たちで行う「直営作業」がないと不利な条件になります。今年度は水路2B（西ノ池農道脇の水路）の東側の一部を改良することになりました。そこで作業にかかる前に、汚れや剥がれたコンクリートなどの除去を行いました。長年の汚れや、ひび割れなどがありました。きれいにして工事に取り掛かれるようにできました。

地域の宝 こどもたち

こどもの数が減っています。県内の学年ごとの児童生徒数を見ると、ほぼ11000人前後で、長い間推移していました。ところが、ここ数年急激にその数が減りだして、昨年は8000人にも届かないのではないかという厳しい予想が出ています。

ところが、この八方原地区の子ども会はひとところに比べると数段増えてきています。住宅も増えていますが、当然かもしれません。こどもたちの声が聞こえるというのは、嬉しいことです。

こどもたちはこの地区の宝物。しっかりと見守り、安心して育つように守っていきましょう。

この通信は <https://www.harataco.org/YKM/> で読むことができます

ポイント2 見て・読んで楽しい紙面構成！

表面の看板記事の写真や、見出しは目を引くものとなるように心掛けています。多面的機能支払の共同活動について紙面に必ず盛り込むようにしています。

ポイント2 見て・読んで楽しい紙面構成！

裏面には、読み物として充実した内容を取り扱うほか、活動組織の構成員・地域の方あての連絡事項も掲載しています。

2024年2月1日 やかたばら環境通信 第201号

寒さに震えながらの農道除草作業



霜がおりて白く化粧した雑草を処理していく

1月14日、厳しい冷え込みの朝となりましたが、中央南北農道と大森農道の除草清掃を実施しました。作業を始める時間では、殆どの場所がまだ朝日が当たっていませんでした。指先が痺れるような寒さの中で、作業を始めました。

大森農道は日常的に管理されている杉山均さんが、殆どどのところの除草清掃を行っておられましたので、東側の市道接続部分の法面の作業が残っていただけでした。

この部分には防草用として、グラン



この日は16人の参加でした。日陰に止めた自動車の窓ガラスが見える間に凍るような寒い中、大変ご苦労様でした。

中央南北農道は、南北に600メートルほどあります。それぞれに作業の場所を割り振って、作業がスムーズに進むようにしました。

ドシートが貼り付けてありますので、機械が使えません。手作業での除草となりました。

給与支払い証明書の配布

昨年（令和5年）1年間の給与支払い証明書を配布します。八万原の環境を守る会では共同作業の日当、長寿命事業の日当それに役員報酬を支払っています。

昨年は58名の方に573,000円のお支払いをしました。その内容を山口市役所の市税担当に提出しましたので、皆様は確定申告をなさる際には、書類に書かれた金額を加算し、税務署用の1枚を提出してください。

「右足が前」が正しい草刈りのスタンス

1月11日、山口市の多面的機能支払制度の研修会が行われました。主な内容は大きな制度改正が令和7年に行われるので、5年計画が最終年となる今年、新たな活動計画を出すか、それとも一年延長して制度の内容を見て新たに作るかというところです。

当会では、今の計画を一年延長して行くことにしています。新制度がどのようなものか確認して、新たな計画を策定提出する予定です。

草刈り機の使用については、正しい姿勢から学びました。右足を前に出した状態を正しいフォームとし、刈刃のどの部分を使っているのが正しいのかも学びました。最も事故の多いのも草刈りです。気を付けましょう。



重機で力みみる土砂は取り除かれる

土砂の除去が始まった

昨年7月の豪雨で東側の山地斜面から大量の土砂が流れ出て、水路の沈砂池の中に大量の土砂が残っています。

1月12日、片山さん方北側の沈砂池の土砂除去が行われました。この土砂は7月の豪雨の際に大量に流れ出たものです。自治会ではすぐさま除去の工事を依頼をされましたが、同様の工事が重なっており、着手が遅れていました。

工事は地元の中田建設工業株式会社が施工されました。それまで雨が少ない状態が続いていたので、土砂除去には好都合でしたが、このところの天候不順で、たまった水を汲みだしながらの工事でした。

ポイント3 積極的な広報誌発信！

広報誌はホームページ上でも閲覧可能です。

■4.「令和6年度 田園自然再生活動の集い」開催のご案内

((一社)地域環境資源センター)■

(一社)地域環境資源センターでは、田園自然再生活動を推進するため、「田園自然再生活動の集い」を開催しています。今年度は、「自然と生きる」をテーマに、自然資本から得られる恩恵を後世に渡って享受し続けるための農業等の営みの在り方や、自然災害や野生鳥獣によるリスクに対峙しつつ自然の中での営みや暮らしの在り方について改めて見つめ直し、これからの田園自然再生活動についてのヒントを探ります。

○日程

令和6年12月11日(水) 13:00~16:45

○場所

国立科学博物館 日本館「講堂」(web 配信併用)
(東京都台東区上野公園 7-20 上野公園内)

○主催

(一社)地域環境資源センター、田園自然再生活動協議会

○定員

会場(100名)、web 配信(300名)

○申込み・問合せ先

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

(一社)地域環境資源センター 田園自然再生活動事務局(担当:藤田)

TEL: 03-5425-2461

FAX: 03-3432-0743

E-mail: denen-saisei@jarus.or.jp

○イベント詳細(11月より参加登録開始)

<http://www.jarus.or.jp/>

■ 編集後記 ■

読者の皆様、こんにちは。いかがお過ごしでしょうか。今回のメールマガジンでは子供会、地元の小学校、NPO 法人などの多様な組織が活動組織と連携している事例を紹介しました。様々な組織と連携することは、共同活動の認知度向上にも繋がるため、今後益々重要になっていくと感じます。これらの事例を参考に、是非取り入れてみてはいかがでしょうか。

次回のメールマガジンもお楽しみに！

◇多面的機能支払メールマガジン「農村ふるさと保全通信」バックナンバー◇

https://www.maff.go.jp/j/nousin/kanri/tamen_siharai/nouson_furusato_hozen/index.html

バックナンバーはこちらの二次元バーコードからご覧いただけます！→



◇「多面的機能支払交付金のロゴマーク」◇

ロゴマークは以下のサイトからご利用になれます。

活動内容の紹介や広報の発信などに、どんどんご活用ください！！

https://www.maff.go.jp/j/nousin/kanri/attach/pdf/tamen_siharai-31.pdf



高めよう 地域協働の力！

◇配信先メールアドレスの変更・配信解除等◇

メールアドレス等の変更やメールマガジンの配信解除等は以下のサイトから。

<https://www.maff.go.jp/j/pr/e-mag/>

手続きにはパスワードが必要です。

お忘れの場合は、以下のサイトでパスワードを再発行して下さい。

<https://www.maff.go.jp/j/pr/e-mag/re.html>

◇多面版 SDGs アイディアシート（案）◇

SDGs アイディアシートのダウンロードは以下のサイトから。

https://www.maff.go.jp/j/nousin/kanri/jirei_SDGs.html

◇ご意見・ご感想等◇

メールマガジンに関するご意見・ご感想や取り上げて欲しいテーマ、ご自身の所属する活動組織の紹介文（300 字程度）等に関するメールをお待ちしています！！

tamen_ml@maff.go.jp

【発行】

〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1
農林水産省農村振興局整備部農地資源課
多面的機能支払推進室（担当：青木、土田）
TEL：03-3502-8111（内線 85683）